

令和5年度

全国学力・学習状況調査報告書

令和5年10月

当別町教育委員会

目 次

I 調査について	1
II 学力調査の状況	2
1) 教科ごとの平均正答率と平均正答数	
2) 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率と無解答率	
3) 全国の下位約 25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合	
4) 経年変化	
5) 結果概要	
III 学習状況調査(児童生徒質問紙・学校質問紙)の状況	4
1) 生活習慣	
2) 家庭学習	
3) 自己有用感	
4) 授業改善	
5) 各教科の授業	
6) ICT機器の活用	
7) その他の項目	
IV 令和6年度当別町学力向上プラン	12

I 調査について

1 目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象学年

- (1) 小学校（義務教育学校）第6学年
- (2) 中学校第3学年（義務教育学校第9学年）

3 内容

(1) 教科に関する調査

対象教科	国語、算数・数学、英語（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）
出題範囲	原則として、調査する前年の前学年までに含まれる指導事項
出題内容	①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 調査問題では、①と②を一体的に問う
出題形式	記述式の問題を一定割合で導入

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 期日

令和5年4月18日（火）

※中学校英語（話すこと）及び児童生徒質問紙は、日程を分散して実施

5 実施した学校及び児童生徒数

	対象学校数	対象児童生徒数	参加児童生徒数	参加率
小学校 (義務教育学校 前期課程を含む)	2校	88人	82人	93.2%
中学校 (義務教育学校 後期課程を含む)	2校	113人	100人	88.5%
合計	4校	201人	182人	90.5%

※参加児童生徒数は、対象となる児童生徒数のうち、当日体調不良等により参加できなかった児童生徒を除いた人数。